

# 清須市の防災施策 対談インタビュー



清須市役所 危機管理課  
はせがわ まこと  
長谷川 誠 防災専門官

9月は台風や大雨の起きやすい時期です。

今月号の特集では、市役所で実習生として勤務中(取材日時点)の、ウルフドッグス名古屋の傳田亮太選手がインタビュアーとなり、清須市で防災専門官として勤務する長谷川さんに、防災についてのお話を伺いました。

[取材日:7/17 於 清須市役所 災害対策本部]



清須市役所 実習生 人事秘書課 秘書広報係  
でんだ りょうた  
ウルフドッグス名古屋 傳田 亮太 選手

## 危機管理課の仕事

**傳田選手(以下、傳田)** 災害対策本部室に入るのは初めてです。どんな時に使われる部屋なんですか？

**長谷川防災専門官(以下、長谷川)** ここは、台風や地震等、市内で被害が出るような災害が起きた時に、市長をはじめとした職員が対応を協議する部屋です。

清須市では2000年の東海豪雨での大きな被害を教訓に、災害対策本部室を常設しています。これは珍しいことなんですよ。被災経験を元に迅速に対応できる体制を敷いているのは、本市の強みです。

**傳田** 何時であろうが呼び出しがあるんですか。

**長谷川** そうです。台風等は予報精度が高まっていますが、地震はいつ起こるかわかりません。例えば、今年の元日の地震でも、災害対策本部を開きました。

本部室に入る職員だけでなく、一般の職員にも、非常配備班という当番があって、災害時には被害状況の調査や市内の防災設備の確認等に当たります。

**傳田** 災害時には、危機管理課が中心になって対応されるんですか？

**長谷川** そうですね。危機管理課が主に、気象状況や地震の状況、川の水位等の情報収集をして、それを分析し、伝達する役割を担っています。

平時は各町内会・自治会の防災倉庫の管理や、最も大事な仕事として市民の皆さんへの啓発を行っています。現在の災害に対する正しい情報・知識を基に、本気になって災害への備えをしていただくのが重要な仕事です。

## 防災=コミュニケーション

**傳田** ここ数年、温暖化の影響なのか、ゲリラ豪雨等の災害が増えている気がします。

**長谷川** まさにそうなんです。温暖化の影響で海水温が上昇して、その結果大雨が多くなっています。1時間に50ミリを超える雨は、50年前と比べると、1.5倍くらい増えているんです。東海豪雨の降水量の記録は、2000年以降ではもう全国で30位以下になっています。

**傳田** そんなに…。東海豪雨を経験した市として、どんな災害対策を行っているんですか？

**長谷川** まず各ポンプ場の能力を向上させました。それから、国や県と連携して堤防を強化したり、庄内川から新川に水が流入する仕組みを見直したりしました。

ただ、先ほどお話しした気候変動の影響を考えると、そういった対策だけではどうしても限界があります。そこで、洪水が起きた際の対策として、避難指示の基準を明確にして、指示を出し遅れることがないようにしています。

市民の皆さんへの伝達方法も、以前は防災無線のみでしたが、今は「すぐメール」という、メールでの伝達方法を導入しています。現在は約13,000人が登録していますが、もっと増やしていきたいですね。

それから、2年前から国で導入された、個別避難計画の制度も推進しているところです。お年寄りや障害のある方を、災害時に誰が支援するのか等を個別に策定するものですが、そこで最も重要なのが周りに住んでいる方の理解と協力なんですよね。



**傳田** 現代社会では、プライバシーが重視されて、ご近所づきあいというものが少なくなってきていますよね。

**長谷川** 災害時の声掛けって、本当に大切です。ご近所同士で一言「大丈夫？」って声掛けをするだけで、お互いに助かるチャンスが格段に増えます。

災害時にけがをしたとして、119番通報しますよね。でも、救急車は西春日井広域消防で6台、県内でも280台ほどしかありません。大きな災害になってけが人がたくさん出ると、救急車は来なくて当然です。その時、助けられるのは周囲の人だけなんです。



実際に被災地では、通常時なら助かるようなけがでも、助けがなくて亡くなってしまいう方もいます。防災とコミュニティは本当に密接に繋がっているんです。

**傳田** 高齢化が進む中で、若い人の意識ってそういう面でも大切になってきますね。

**長谷川** おっしゃる通りです。各町内会や自治会で自主防災訓練をやっていただくと、若い人の参加者がとても少ない。今年、若い人に向けた啓発活動の工夫として、マルシェと抱き合わせで防災訓練を実施したところ、ご家族連れが多く参加してくださいました。

硬い話ばかりでなく、楽しんで学べるように意識して啓発活動をしています。

## コラム 東海豪雨

平成12年(2000年)9月11日から12日にかけて、愛知県を中心に東海地方で発生した記録的な大雨です。

愛知県内の河川の破堤は45か所に達し、清須市でも新川堤防が決壊しました。県内で68,000棟を超える家屋が浸水し、300か所を超えるがけ崩れが発生、7名が犠牲になりました。

名古屋地方気象台の観測では、日最大1時間降水量は97.0ミリ、最大24時間降水量は534.5ミリを記録しました。





## 避難の準備

**傳田** 様々な対策をされていますが、清須市で懸念される水害のシナリオ等はあるんですか？

**長谷川** 洪水のハザードマップがあって、近年どこの洪水も実際にその街のハザードマップ通りの被害が出ています。自宅にいて大丈夫なのか、避難すべきなのか、避難するとしてもどのタイミングであればいいのか、これで判断できるようになっています。

**傳田** 避難する時、持ち物に迷ってしまいそうです…。

**長谷川** 3日分くらいの必要なものを持って逃げるといいですね。具体的な持ち物も、水害対応ガイドブックに掲載しています。

ポイントは、持って逃げるものと家に備蓄しておくものを分けて準備することです。

さらに、避難先で体調を崩して亡くなってしまう、災害関連死のリスクもあります。特に普段飲んでいる薬は、避難先で用意することは難しいので、必ず持って避難していただきたいですね。



それから、今、市で啓発しているのが寝具です。寝られないことは体調を崩すことに直結しますので、市でもエアマットを備蓄しています。ただ、人数分を用意することはなかなかできないので、避難場所へ持参されるよう推奨しています。

**傳田** バレーボールの試合で遠征する時に、持ち運びのできるマットやクッションを持っていく選手もいるので、睡眠の大切さはよくわかります。

## 「守りたい」がモチベーション

**傳田** ではここから、防災専門官ご自身についてお伺いします。以前は航空自衛隊に勤務されていたとお聞きしましたが、セカンドキャリアとして防災専門官の道を選んだ理由を教えてください。



**長谷川** きっかけは東日本大震災です。

当時、私は宮城県の松島基地に派遣され、そこから災害派遣に行ったんです。でも、生きている方を一人も助けることができなかった。津波で亡くなったご遺体を、ご家族のもとにお返しすることしかできなくて、本当にむなしく、つらい気持ちになりました。

その時、自然に対して人間が勝つことは絶対にできないと悟りました。それまで私は、戦闘機のパイロットとして、自分が強くあれば絶対に日本を守れるという自信があったんです。でも、大地震が来た結果、誰も守れなかった現実を目の当たりにしました。

そこで、市民の皆さんで、避難の仕組みを作らなきゃいけないと痛感して、防災の道に進みました。

**傳田** 自分もそうですが、災害を経験したことの



◀ 水害・災害のハザードマップや水害対応ガイドブックはこちらから。  
その他、災害に関する情報も発信しています。

ない人は、どうしても意識が低くなりがちですよ  
ね。防災専門官として働く中で、そういう人たちに  
伝えるために意識していることはありますか。

**長谷川** 災害派遣の現場での、私の実体験を交え  
てお話しするようにしています。

災害のことは、経験した人が伝えていくことが  
とても大切です。家族を亡くされた方の涙は、今で  
も忘れられません。その悲しみを、できるだけ伝え  
たい。今は言葉だけでなく映像もありますから、災  
害の恐ろしさを正しい情報として伝え、その具  
体的な対策も同時に伝えるようにしています。

例えば、東日本大震災の時、亡くなられた方の原  
因の多くが津波だったんですが、その中には一度  
は逃げている方もかなりいたんです。でも、家に何  
かを取りに帰ったり、別の場所にいる家族を迎え  
に行ったりした方が、大勢亡くなってしまった。あ  
の時家に帰らせなければ生きていたんですって涙  
を流されるご家族もいて…。

今は災害伝言ダイヤルもありますし、家族間で  
そういうツールを使って、危険な行動を取らない  
ように安否確認をしていただきたいなと思います。

**傳田** 航空自衛隊の時の経験が、今に活きている  
んですね。

**長谷川** そうですね。自衛隊にいる時、新人の頃よ  
りも、編隊長として多くの部下の命を預かるよ  
うになってからの方が、緊張感が増して勉強に身が  
入るようになったんです。

真剣に守ろうと思うと、やる気になる。それは防  
災にも繋がることだと思います。

## 災害への心構え

**傳田** 最後に、台風シーズンを迎えるにあたって、  
市民の皆さんにメッセージをお願いします。

**長谷川** 大切なのは、情報を正しく認識して備え  
ることです。

「防災＝コミュニケーション」を普段から意識し  
て、避難の際には空振りを恐れないこと。避難して  
何もなかったならそれで良いんです。

日本に住んでいる限り、災害は起こる前提で、自  
分と自分の大切な人の命を守るために、今、真剣に  
考えてほしいと思います。

**傳田** 自分も家族がいる身として、しっかり話し  
合って備えようと思います。コミュニケーション  
が大切なのはバレーも同じなので、そこも普段か  
ら意識していきたいです。

貴重なお話をありがとうございました。

ウルフドッグス名古屋 #11  
SV.LEAGUE

**傳田 亮太** 選手

【日本代表歴】

平成28年～平成30年



清須市 防災専門官

**長谷川 誠** さん

【略歴】

愛知県津島市出身

昭和58年3月	航空自衛隊入隊(第39期航空学生)
平成25年5月	西部航空方面隊司令部支援飛行隊長
平成28年3月	第6航空団司令部防衛部長
平成30年1月	防災危機管理課程 (内閣府地域防災マネージャー)
平成30年6月	定年退官(1等空佐)
平成30年7月～	清須市防災専門官

